

お元気ですか？

ogenkidesuka

第88号

2020年1月発行

公立富岡総合
病院ニュース

- 企業長 新年の御挨拶
- 院長 新年の御挨拶
- 自宅血圧測定のすすめ
- シリーズ職場紹介(PCU病棟)
- 2019年度 患者満足度調査結果報告
- 院内面会禁止
- 地域医療連携だより(市民公開講座・コミュニティカンファレンス・オータムコンサート)



「スバル」撮影者：佐藤 尚文(16cm反射望遠鏡で撮影)

星はスバル、と清少納言が枕草子で語った冬の代表格の星たちです。太陽よりも若く大きな星々が数十個の大集団を形作っていて、星を包む刷毛で掃いたような青白い雲は星を生み出した星間ガスです。あなたは何個の星が見えますか？

発
行

富岡地域医療企業団

公立富岡総合病院

〒370-2393 群馬県富岡市富岡2073-1

☎ 0274-63-2111 📠 0274-64-1406

✉ tomihp@mail.gunma.med.or.jp

🌐 <http://www.tomioka-hosp.jp>





新年の御挨拶

富岡地域医療企業団
企業長 佐藤 尚文

謹賀新年



令和の時代になり初めての新年を迎えました。日本は長い歴史の中で初めて戦争のない平成時代を経てこの新しい時代を迎えました。引き続き戦争のない成熟した社会の維持に努めるのは当然ですが、ここであらためて覚悟を要するのは“災害”であろうと思えます。地球温暖化は今後毎年、必ず豪雨や豪雪をもたらし猛暑が私たちの生活を様々な観点から脅威にさらすと予想されます。地球規模で見れば地殻変動（プレートテクトニクス）で数十年に1度位の確率で巨大地震や巨大津波、火山の大噴火が起こりますし、数百年から数千年単位で見れば、巨大隕石の衝突や超新星爆発による突然の寒冷化など、人類の存続すら脅かす事態も必ず起こるといふ歴史に刻まれた事実は忘れることができませぬ。地球そして太陽系とはそんな環境にあり、人類はその狭間のわずか数百万年を生き抜いてきたに過ぎないのです。

冬の澄んだ日に見える美しい赤

城の鍋割山も榛名富士も形を見れば火山であることが一目瞭然です。数万年前の大噴火の時には周辺の私たちの祖先の命を脅かしたに違いありません。そんな激しい自然環境の中でも、人類は幸せに生きようと努力し、智慧や文化を育ててきたのです。その智慧とは先人の経験に学び歴史を学ぶことであり、もうひとつは物の本質を見抜くことだと思えます。たとえば、元気に歩ける子供たちは歩けることが当たり前であり、その素晴らしさを理解はしていません。しかし年をとり歩くことが不自由な人にとつて、歩けることは素晴らしいことであり幸せなことだと理解できます。そんな視点で見ると私たちの周りは幸せで溢れているのかも知れません。この“気づき”こそが幸せの1歩であり悟りと呼んでも良いのではないかと思えます。親鸞は、極楽も地獄も死後の世界ではなくこの世の中にあると言ったそうです。私たちは新しきや便利さを求め、それが“善

”と捉えがちです。しかし一方で新しいこと、便利なことを得たときには必ず大切な何かを失う運命にあります。ワープロの出現で字を忘れ、動画やCGの進歩は言葉の表現力を奪い、車の出現で歩力が衰えました。スマホやインターネットの出現は人間関係やコミュニケーションをより複雑なものに変えましたし、化石燃料を大量に使った豊かさの裏で、温暖化と大規模な気候変動を引き寄せました。令和の時代、これらのつけがどうなるのか不安もあります。が、この“気づき”という武器で先人に学び歴史に学びながら、幸せを感じとる智慧を友として、より複雑になった新時代を生きぬいて行きたいものです。





新年の御挨拶

公立富岡総合病院
院長 町田 昌巳



明けましておめでとうございます。去年は、平成から令和に変わった年でしたが、当院にとっても久々の病院機能評価受審で、ルールの確立や、業務内容の見直しに力を入れ、病院機能の向上を目指した一年でした。病院機能評価受審準備委員会を中心に、それぞれの部署が自発的に作業をまとめ上げ、審査のときには予想外の質問に戸惑いながらも、皆さん堂々と受け答えをしていました。病院の組織は本当にプロ意識で有機的につながった集団だなと感じました。審査後の講評の最後に「皆さん、二日間楽しかったですか?」と聞いてしまいました。苦勞した充実感を感じられたのではないのでしょうか。審査の結果待ちですが、良い手ごたえが得られたと思います。

当院の良いところは、病院の規模が適度の大きさであり、見通しの利く人間関係を築きやすいと言えます。各診療科、各職種間での垣根は低く、良好な意思疎通ができています。ストレスチェックテ

ストでは、仕事の負担を感じる人は多めでしたが、人間関係、働きがいは比較的良好でした。

今年は、電子カルテとPACSの更新、MRIの更新などを控えており、業務に一時的な支障をきたす可能性がありますが、完了したあとはさらに仕事のレベルアップが期待できます。富岡保健医療圏は、人口約7万人の小さな医療圏であり、人口減少、高齢化が進んでいる地域です。十分な救急対応のできる急性期病院は、当院しかありません。診療の質を保ちながら、病院を存続させるためには、なるべく周囲の地域も含めた地域住民の信頼を得て、診療圏を確保する必要があります。一般診療はもちろん、救急医療にも力を注いでいきたいと思います。

忙しさが増す一方で、年次休暇の取得義務、労働時間の総量規制が厳しくなってくるため、働き方改革にさらに取り組まなければならない年です。労働人口の減少の中で、当院で働ける人材を集める

ためには、様々な勤務形態を工夫して対応していく必要があると考えます。今年の初期研修医は募集枠に合格した4人が国家試験の結果を待っています。さらに後期研修から常勤医につながるような人材を育てるために、当院の初期研修医の枠を増やしたいと考えています。

群馬県は自然災害が少ない地域のような印象を受けますが、去年は全国で台風の被害が大きく、市内でも重大な事故が発生しました。病院は災害に対する砦として、職員への災害訓練、電気、水道、ガスなどのライフラインの整備、食料、医薬品、医療材料の備蓄などに取り組んで行きたいと思っています。今年も、患者中心の医療の理念のもとに頑張りましょう。



自宅血圧測定のすすめ

循環器科 庭野 和生

冬も深まり寒さが厳しくなって来ますと、血圧が気になる方も多いかと思えます。今回は高血圧疾患、自宅血圧測定の重要性についてお話ししたいと思います。検診などで血圧高値を指摘されますが、血圧高値はそのままでは何の症状もありません。しかし、血圧 120/80 を超えると脳梗塞、脳出血、心筋梗塞など脳心血管病、慢性腎臓病などの罹患や死亡リスクが高くなり、急な臓器傷害の発症を来すこととなります。

循環器科でも診察前に血圧測定を行っていますが、自宅での血圧測定も勧めています。診察室血圧より自宅血圧の高い方が心血管イベントを起こしやすいとの報告もあり、2019 年高血圧ガイドラインにて診察室血圧 140/90、自宅血圧 135/85 以上を高血圧と定義しています。診察では本人の高血圧歴や治療歴、高血圧、糖尿病、心疾患の家族歴、妊娠高血圧の有無、運動習慣、睡眠習慣、飲食、塩分、飲酒などの食事習慣、喫煙習慣、うつ、ストレスなど確認します。血圧 140/90 以上の高血圧治療は食事や生活習慣修正など非薬物療法から開始しますが、効果ない場合に薬物治療を検討します。75 歳未満の方は診察室血圧 130/80、自宅血圧 125/75 未満を目標にしますが、75 歳以上の方は血圧低下によるリスクがあるため、診察

室血圧 140/90、自宅血圧 135/85 未満を目標にします。

高血圧治療において生活習慣修正は必須になります。①減塩 (4.6g/day 減少)、②DASH 食 (野菜、果物、低脂肪乳製品など)、③減量 (4 kg/day 減少)、④運動 (30-60 分有酸素運動)、⑤節酒 (76% 減少)、それぞれ収縮期血圧 4mmHg/ 拡張期血圧 2mmHg) 下げられるとされています。平均血圧を 4mmHg 低下させると脳卒中死亡 1 万人減少、冠動脈疾患死亡 5000 人減少できると報告があります。

高血圧治療を継続して良い血圧数値を維持して頂くことが重要ですが、高血圧治療を開始しても継続して内服できている人は 50%-60% と報告されています。原因としては加齢による認知機能低下、視力や巧緻機能低下、多種類の内服、複雑な飲み方の処方や頻繁な処方変更、治療に対する医師と患者の意思疎通の不足などが挙げられます。そのため処方の簡便化、薬剤の一包化、服薬カレンダー、薬ケース、同居者や介護スタッフによる服薬管理、医師や薬剤師との相互理解を深める様に留意しています。

まずは自宅での血圧測定を行ってみては如何でしょうか、その結果を拝見して高血圧治療の相談をさせて頂きたいと思われま

高血圧治療において生活習慣修正は必須!!

DASH食

減塩

節酒

運動

減量

自宅での
血圧測定





職場紹介 PCU (緩和ケア) 病棟

PCU (緩和ケア病棟) は 18 名 (看護師 17 名、看護補助者 1 名) のスタッフが、「あなたらしく生きることを支えます」とい

う理念のもと、がんを持つ患者さんやそのご家族に対して日々ケアにあたっています。

がんを持つ患者さんは、体の痛みをはじめ不安や孤独感、仕事のこと、生きる意味の問いなど、さまざまな苦痛を抱えています。PCU では、体の痛みや苦しさを取り除くとともに心のケアも行い、患者さんやご家族のお話をゆっくり伺いながら、患者さんが自分らしく生きられるように支援することを大事にしています。緩和ケアは、決して終末期のケアを意味するものではありません。がんの痛みや体の辛さで PCU に入院しても、薬を調整したり、訪問看護や介護保険の活用など必要な体制を整えるお手伝いをする中で、再び自宅や施設などで過ごせるようになる患者さんも多くいらっしゃいます。退院されてからも緩和ケアチームと協力しながら 24 時間体制で電話相談や緊急入院の対応を行っており、患者さんやご家族が安心して過ごせるように努めています。

病室は、暖かい日差しが入る南向きです。病棟の東端にある談話室の窓は大きく眺めもよいため、外の山々を眺めながら、患者さんからいろいろな話を聞かせていただくことも多々あります。庭園は各部屋に面しており、色とりどりのお花が季節ごとに咲いています。病棟の廊下には、患者さんやご家族の癒やしとなるよう季節にあったアレンジフラワーが飾られ、サービスセンターではヒーリングミュージックを流しています。また、クリスマスや七夕には、毎年工夫を凝らして患者さんに楽しんでいただける行事を行っています。これからも、日々患者さんやご家族のためにスタッフ一同とりにくんでまいります。



2019年度 患者満足度調査 結果報告

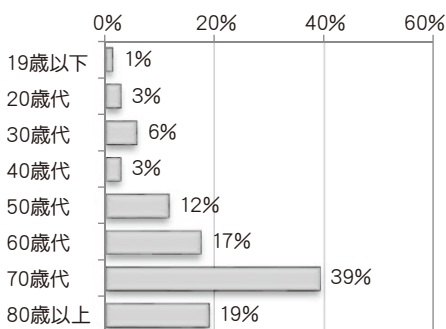
当院は、業務や医療サービスの質向上を図ることを目的として、患者満足度調査を実施しました。各質問に対して、「満足」「ほぼ満足」「やや不満」「不満」の4段階評価で答えていただきました。結果は次のとおりです。

入院患者

- 調査期間：2019年7月9～22日
- 調査方法：無記名アンケート
- 回答者数：69人[男性40、女性27、不明2]
- 回収率：23%（期間中退院患者数306人中）

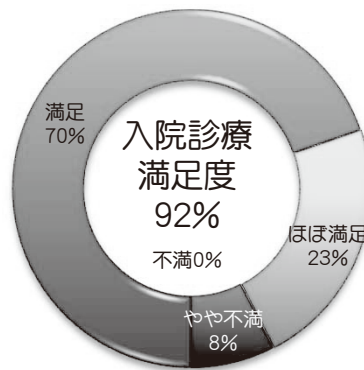
入院診療、入院看護の満足度（「満足」と「ほぼ満足」の比率）は、いずれも90%以上でした。項目別では、入院での食事面の評価が低めでした。しかし、栄養士からの説明、言葉遣いや態度は、高い評価をいただきました。

回答者年齢

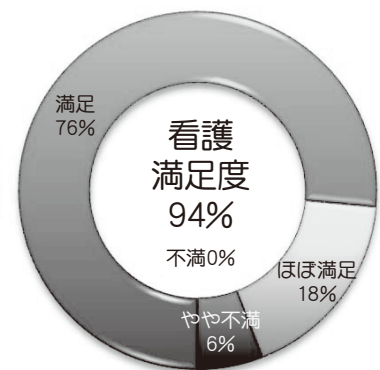


満足度

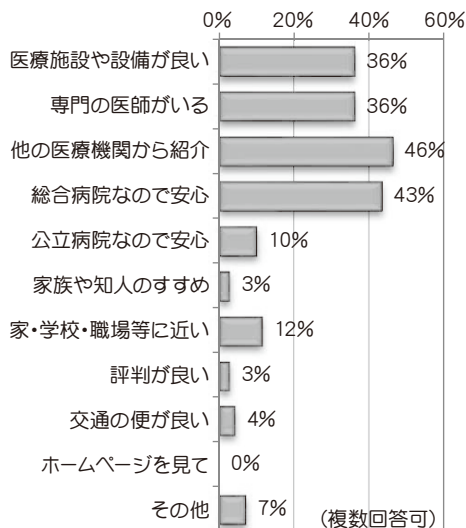
当院に入院されて満足のいく診療を受けることができましたか



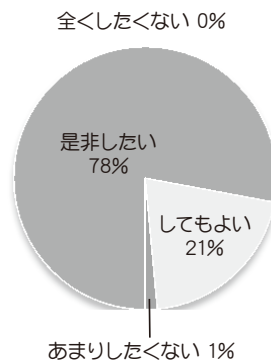
当院に入院されて満足のいく看護を受けることができましたか



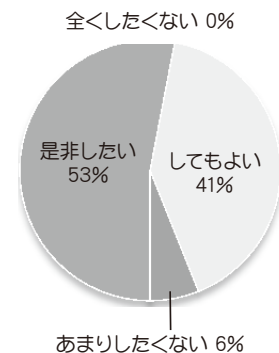
当院を選択した理由



今後も当院を利用したいと思いますか



知人等に、当院を紹介や推薦したいと思いますか



皆さんからいただいた貴重なご意見を参考にして、より良い医療サービスができるよう努力してまいります。

また、お気づきの点がありましたら、院内に設置してあります投書箱「皆様の声」にご意見をお寄せ下さい。

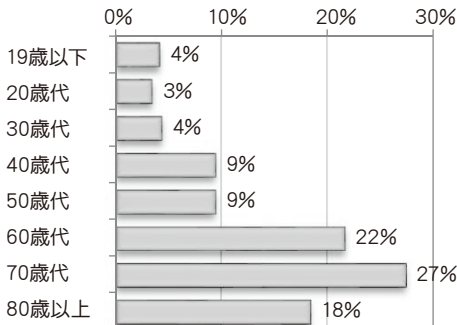


外来患者

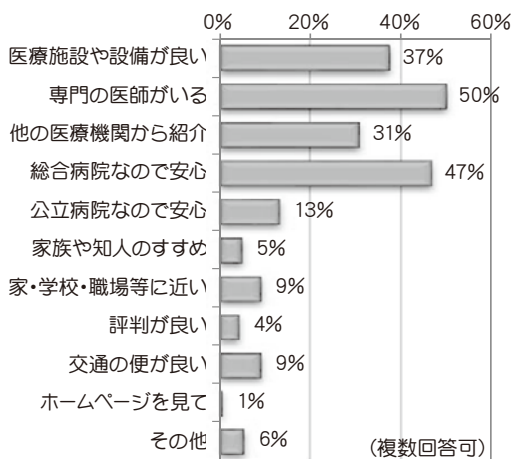
- 調査期間: 2019年7月11~12日
- 調査方法: 無記名アンケート
- 回答者数: 435人 [男性204、女性225、不明6]
- 回収率: 37% (期間中外来患者数1,186人中)

外来診療の満足度(「満足」と「ほぼ満足」の比率)は、いずれも90%以上でした。外来では、受付から診察までの待ち時間に多くの不満が寄せられました。喫緊の課題と考え、改善に努力していきます。自由記載では、101件のご意見をいただきました。内訳は、院内施設面12件、病室環境面7件、診察面9件、看護面9件、接遇・安全面7件、サービス面14件、待ち時間14件、お褒めの言葉29件でした。感謝やお褒めの言葉を多数いただきました。今後も、今以上のお褒めの言葉をいただけるよう努力して参ります。

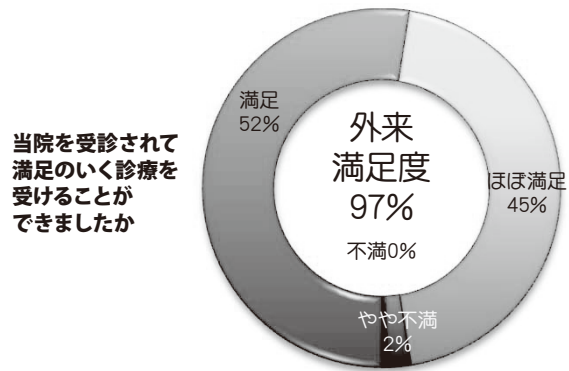
回答者年齢



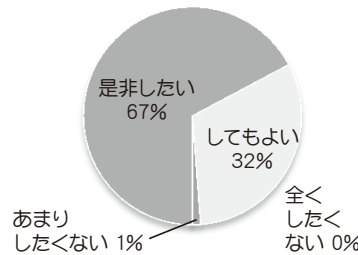
当院を選択した理由



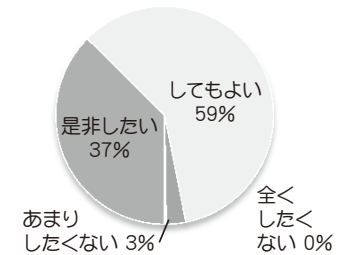
満足度



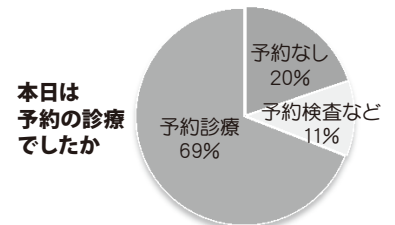
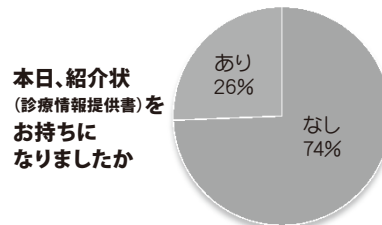
今後も当院を利用したいと思いますか



知人等に、当院を紹介や推薦したいと思いますか



紹介状の有無・予約の有無



院内全体面会禁止のお知らせ

インフルエンザ・ノロウイルスなどの感染症が流行する季節となりました。患者の安全を第一に考え、流行時期が過ぎるまで **院内全体で面会を禁止**しています。

入院患者がインフルエンザやノロウイルスなどの感染症に感染すると重篤な症状を招く危険性があります。

院内感染予防のため、ご理解ご協力をお願いします。



地域医療連携だより

11月15日市民公開講座を開催しました。

当院町田院長を講師に、「おそれないで、正しく知ろう前立腺がん」と題した講演は、約80名の方にお集まり頂きました。ご病気をお持ちの方、ご病気が心配だという方、ご夫婦での参加、特に男性の多さには、関心の高さを感じることが出来ました。

講演では具体的に「標準治療」とはどんな治療か、保険適応で費用はどの程度かかるかなどのお話がありました。質疑応答では「予防方法はあるか」「初期の症状はどんなか」など質問があり、町田院長と飯塚副院長の掛け合いで、終始和やかな講演会となりました。



コミュニティカンファレンスのご紹介

当地域では、病院・介護施設の相談員等の参加するカンファレンスを定期的に開催しています。

10月はベッド状況、台風19号の影響や対応方法など情報共有を行いました。また公立七日市病院管理栄養士金井崇氏を講師に迎え、嚥下食について勉強会を行いました。病院では嚥下食Ⅰ～Ⅲ度と呼ばれる食事形態も、施設では刻み食、ペースト食、ムース食など呼び方が様々です。また同じ呼び方の食事も、実際の形態は施設毎に異なることがあります。そのため比較的統一された学会分類と照らし合わせながら、転院や施設入所時の引継ぎで気をつけたい点など、確認しあうことが出来ました。



オータムコンサート

昨年11月16日(土)の14時から当院エントランスホールにて、毎年恒例のオータムコンサートを開催しました。

当日は、入院患者さんや地域の皆さんが多数お越しく下さいました。

コンサート前半は県立富岡高等学校音楽部による合唱で、「もみじ」「ふるさと」「花は咲く」など7曲を披露。来場された方も口ずさみながら懐かしそうに聴き入っていました。

後半はリリコ・スピラーレによるフルートアンサンブルで、「アリア」「荒城の月」など5曲を演奏。心地よいフルートの音色は、会場を温かく包み心癒やされる秋のひとつとなりました。



お問い合わせ先

公立富岡総合病院 患者支援係(がん相談支援センター)

TEL.0274-63-2111 FAX.0274-64-1406

E-mail msw2005@tomiokahosp.jp

